



第2回
北陸SDGs未来都市フォーラム
開催報告書



第2回 北陸SDGs未来都市フォーラム

令和5年1月27日(金) 13:00~17:00
オンライン開催

北陸の自治体のSDGs関係者や企業、団体、市民が集い、北陸のイマを共有して、ミライを発信するこのフォーラム。

一昨年開催から第2回目となる今回は、株式会社エンパブリック代表取締役・広石拓司氏の基調講演をはじめ、北陸三県のSDGs未来都市（2県10市の12都市）からのSDGs取り組み報告を第1部で、第2部ではテーマごとに5つのグループに分かれて、現状や課題を共有し、この先の進め方について話し合い、全体発表によってSDGsの目標達成に取り組む思いを共有しました。

第1部

- 開会挨拶：金沢市長 村山 卓
- 来賓挨拶：内閣府地方創生推進室 谷 浩 参事官
- 基調講演：株式会社エンパブリック代表 広石 拓司 氏 **P03**
- 「ローカルSDGsの現在地」
- 北陸のSDGs未来都市の取組報告 **P05**

第2部

- グループディスカッション&トークセッション **P11**
- 「北陸SDGsの今と未来」
- グラフィックレコーディング
- テーマ別 各グループからの共有 **P13**
- 広石拓司氏 渡辺所長 総括 **P18**
- 閉会挨拶：金沢青年会議所副理事長 飯田 泰裕

基調講演「ローカルSDGsの現在地」

株式会社エンパブリック 代表 広石拓司氏

主催者を代表して村山卓金沢市長、このフォーラムを後援する内閣府地方創生推進室の谷浩参事官から開会の挨拶をいただいた後、広石さんから、SDGs に関しての近年の大きな動きや、各地の SDGs 未来都市の取り組みの中から注目していることなどを紹介していただきました。

自分が望むこれからの日常をつくろうと考えた時、ひとりの力では難しく、まわりの人たちと協力しあって進めていくために、対話が重要であり、思いや課題、自分が得意なことなどを共有し、それを広げていくことが、地域や社会を変えていきます。そのようなサイクルを動かす推進力となるのが SDGs だと述べました。

自然に影響することが社会や経済にも影響を及ぼすということが、SDGs によって浸透しました。従来は別々に解決しようとしていた地域に起きている課題を、統合的、複合的に考えていこうとする「循環を活かす環境・社会・経済の同時解決」という動きが広がっていると紹介。さらに、「脱炭素」、「サーキュラーエコノミー」、「ダイバーシティ&インクルージョン」、「自治体と企業のパートナーシップ」、「人的資本経営戦略」など、今注目したい SDGs の現在地を示すキーワードを解説してくださいました。

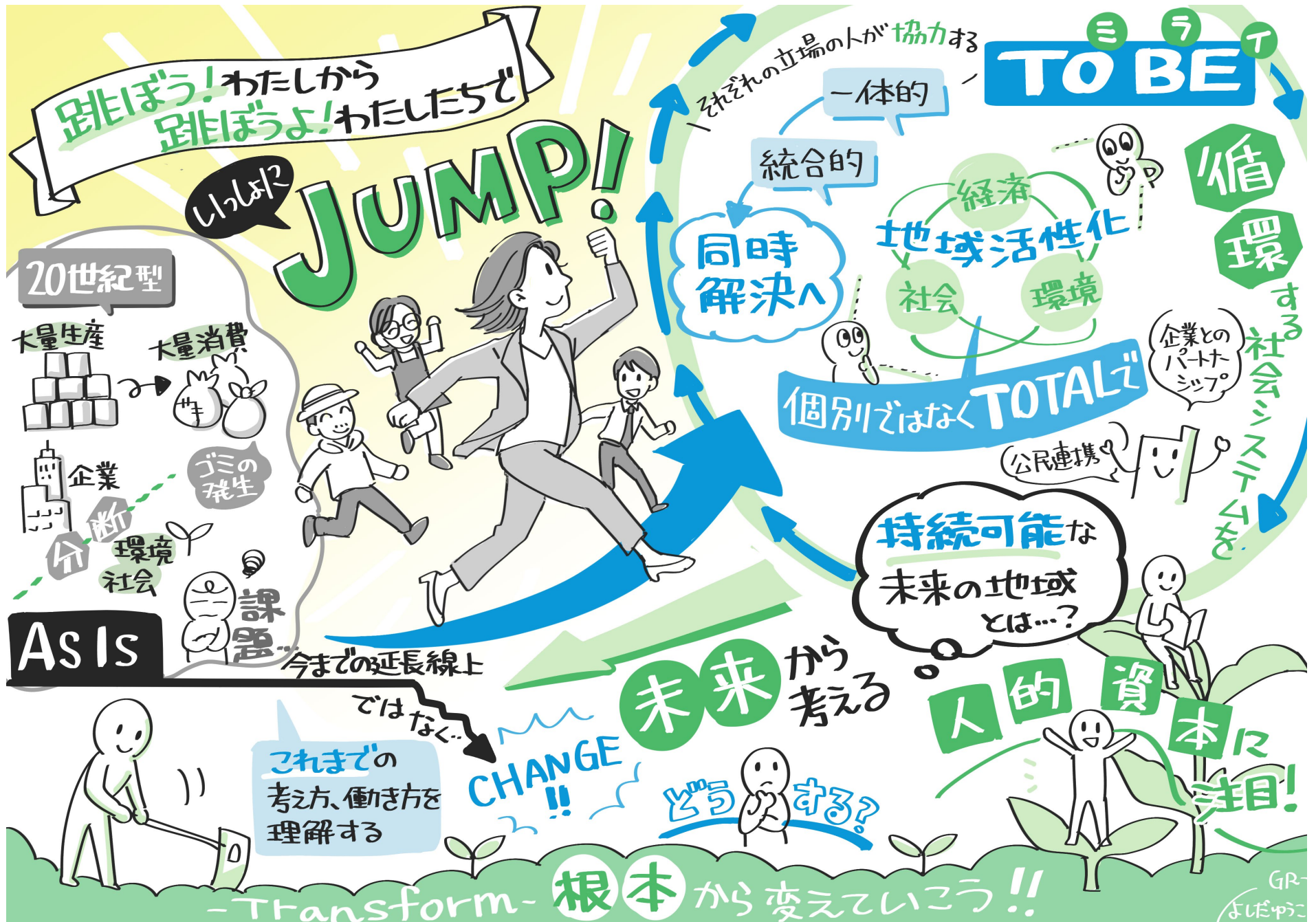
具体的な先進事例として、経済、社会、環境を一体的に取り組むことで、同時課題解決を目指す滋賀県湖南市の事例を取り上げました。

「従来、エコな暮らしは、環境配慮への意識を高めるものでしたが、それには限界があり、これからは、経済面でも自分のライフスタイルとしてもそうしたいし、それが普通という社会システムを実現したい」と広石さん。

ほかにも、社会システム全体として、資源を使わない社会や地域をデザインしていく、「サーキュラーエコノミー」に取り組む横浜市の「横浜版地域循環型経済」などを紹介していただきました。

企業でも自治体でも、課題解決を今までの延長線上でしか考えられないか、未来の普通を作っていく未来志向へとジャンプできるか、その差が大きく広がっているとそうで、そのために、未来の地域をつくる人的資本が注目されていることも言及しました。

「このままでは持続が難しそうなことに気づいたら、地域の中で同じようなことを考えている人と一緒にジャンプして、2030 年に向けた動きが加速すればいいなと思っています」と述べ、基調講演を締めくくりました。



富山県

富山県のSDGsの取組み～富山県SDGs宣言～／富山県成長戦略室

将来ビジョンに「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先端県とやま』」を掲げ、その実現に向け取り組んでいる。富山県発展の原点である「水」に焦点を当て、2030年においても「美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続可能な経済発展を実現する県」を目指す。「富山県 SDGs 宣言」をする企業・団体を県内から募集し、専用ウェブサイトで広く発信し、企業・団体での SDGs の取り組みの促進や、県や市町村、企業・団体との連携を促進している。

富山県SDGs宣言 ウェブサイト <https://www.sdgs-toyama.jp/>



富山市

持続可能な付加価値創造都市を目指して／富山市企画調整課

人口減少、超高齢化社会を見据えて、将来世代に責任が持てる、持続可能な公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりに取り組んでいる。持続可能で誰もが暮らし続けたいまちであるために、デジタル技術やデータを活用した富山市版スマートシティを推進し、コンパクトシティ政策を深化させていこうとしている。子どもたちが地域の人と関わる場を作り、地域をより深く知ることによって郷土愛を育むことにつなげている。

SDGs未来都市とやま <https://sdgs.city.toyama.lg.jp/>



南砺市

自立と循環で目指す、一流の田舎／南砺市エコビレッジ推進課

南砺市が目指すまちの将来の姿は、南砺らしい暮らしを楽しみ、目に見えない豊かさが実感できる「一流の田舎」。地域資源を日常生活や課題解決に活用し、産業を生み出し、支えあいながらコミュニティを営み、次世代を育むという好循環を生み出すことを目指しており、地域エネルギー事業を手掛ける企業も立ち上がった。小規模多機能自治の手法を用いた新たな住民自治へ取り組むため、既存の住民組織の解体と再編成を行っており、人口減少高齢化の中でも持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

南砺市エコビレッジ構想

<https://ecoto.jp/wp2020/>



金沢市

市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち／金沢市企画調整課

金沢では藩政期からのまちづくりの基盤を受け継ぎ、保存と開発の調和を図り、SDGs の理念が広がる前から持続可能なまちづくりに取り組んでいる。2030年に金沢が目指す5つの方向性から「金沢ミライシナリオ」を市民と一緒に作成、SDGsを進めていく際には行政主導ではなく自発的な活動になるように工夫している。また、北陸では初となるパートナーシップ宣誓制度をスタートさせた。さらに国連大学と協働して、持続可能な都市自然プロジェクトを実施中。

IMAGINE KANAZAWA 2030

<https://kanazawa-sdgs.jp/>



小松市

サステナブルな人とまちと地球を目指す／小松市

まちづくりの理念である「ふるさとこまつを未来へつなぐ条例」は、小松の豊かな自然環境、伝統文化、産業、人々の技術や想いといったものを持続的に継承して発展させていこうというもので、SDGs の理念に合致する部分が多い。また、経済、社会、環境の3つの側面のいずれにも深く関わり、より有機的にそれぞれを結びつける役割を担うものとして、「人づくり」を掲げ、企業や大学などのパートナーシップによって、これらをさらに高めていくことを提案している。

小松市役所

<https://www.city.komatsu.lg.jp/>



加賀市

官民協働のスマートシティによる持続可能なまち／加賀市スマートシティ課

加賀市には人口減少と多極分散型の都市形態という大きな課題がある。この解決のために、加賀市成長戦略の2本柱として、先進テクノロジーの導入と人材の育成を強力に進めている。加賀市イノベーションセンターの設置やリスキリング教育（地域の稼ぐ力・学び直し）、農業のデジタル化、行政サービスデジタル化を推進。環境の分野では、電気自動車を公用車に導入し、夜間・土日祝日に市民や観光客への貸出をするEVシェアリングという、ユニークな取り組みも行う。

加賀市役所

<https://www.city.kaga.ishikawa.jp/>



白山市

子ども・若者を中心としたSDGs推進プロジェクトについて／白山市企画課

市域全体が「白山手取川ジオパーク」（今年、世界ジオパークに正式認定される予定）で、山間部は4県7市村からなる「白山ユネスコエコパーク」として世界に登録されている白山市のSDGsは、ジオパークやユネスコエコパークとの相乗効果を意識した取り組みになっている。地域資源を体験学習の場として、修学旅行などを誘客するスタディーツーリズム事業を開始。ジオ、エコ、SDGsの3つのテーマを同時に体験学習できる場は自治体でも少ないと考えている。

白山市役所

<https://www.city.hakusan.lg.jp/>



能美市

SDGsによる地域づくり／能美市企画デジタル課SDGs推進室

2030 年に向け、能美市が掲げたあるべき姿が「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」。昨年8月には能美市の地域で活躍する「お人柄」を通じてSDGsを学び、人と人がつながるきっかけづくりとなるようSDGsの特設サイトを開設。SDGsの視点を持ったふるさと学習のために、このサイトを小中学校の授業で活用し、子どもたちのふるさと愛の醸成につなげる予定。企業、団体、個人が参加できる「のみSDGsパートナーシップ制度」も立ち上げた。

のみSDGs

<https://nomisdgs.jp/>



福井県

未来のために。～次の世代に選ばれる福井へ～／福井県未来戦略課

県民と一緒に作成した 2040 年に向けた長期ビジョンでは、「自信と誇りのふくい」「誰もが主役のふくい」「飛躍するふくい」という 3 つの福井が目指す姿を描いている。その姿の実現のために、「次世代ファースト」を合言葉にしながら、人材力を柱に、全县一体になって行動していこうとしている。SDGs 推進のための官民連携プラットフォームを創設し、企業や団体、教育機関、自治体など 900 以上の機関が登録。公募によりロゴマークを作成するなど、普及啓発に力を入れており、今後は企業や団体の連携促進を強化していく。

福井県庁 <https://www.pref.fukui.lg.jp/>

福井県のSDGsへの取り組み <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/sdgs/sdgs-top.html>



鯖江市

持続可能な「めがねのまちさばえ」女性が輝くまち／さばえSDGs推進センター

鯖江市が掲げる自治体 SDGs モデル事業は、「女性が輝くメガネのまち鯖江、女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする」。国内製造シェア 9 割を誇るメガネ製造は裾野が広く、20～40 代前半の女性の就業率が高いが、意思決定の場を見ると、女性の割合がまだまだ少ない。SDGs 未来都市に選定された後、「さばえ SDGs 推進センター」がオープン。市民一人ひとりが SDGs を自分ごととして捉え、「行動する」ための拠点となることを目指している。

さばえSDGs推進センター <https://www.sabae-sdgs.jp/>



輪島市

SDGs未来都市『輪島市』”あい”の風が育む

「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」

—三位一体の持続可能な発展を目指して—／輪島市企画課

世界農業遺産「能登の里山里海」に象徴される自然環境の保全と継承をはじめ、自然・歴史的景観の保全・活用、「朝市」や「白米千枚田」など多様な観光資源を活用したツーリズムの振興、世界に冠たる「輪島塗ブランド」と漆器産業のさらなる強化を進めている。



珠洲市

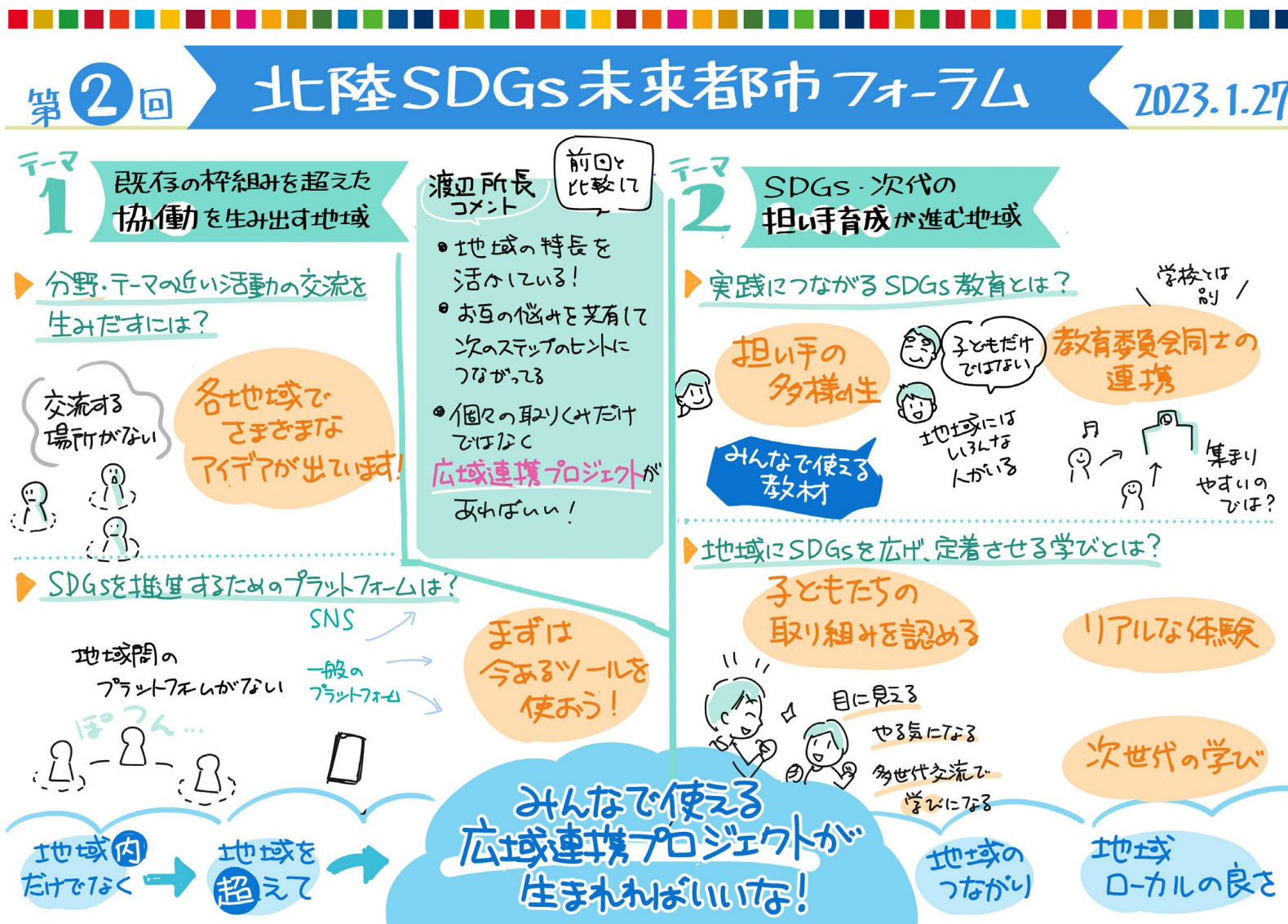
珠洲市のSDGsに関する取組／珠洲市企画財政課

人材育成事業であるマイスタープログラムの継続・発展や多様なステークホルダーが連携し、産学官金のプラットフォーム機能を担う能登SDGsラボの運営を行うほか、奥能登国際芸術祭の開催等、先端アートプロジェクトによる地域の魅力発信及びインバウンド促進を行っている。人口減少や高齢化などの地域課題に適応し続けることのできる柔軟性と多様性を持ち合わせた地域の実現を目指している。



北陸SDGsの 今と未来

第1回の北陸SDGs未来都市フォーラムで考えた、これからの北陸地域で取り組んでいこうという5つのテーマについて、グループに分かれてディスカッションしました。



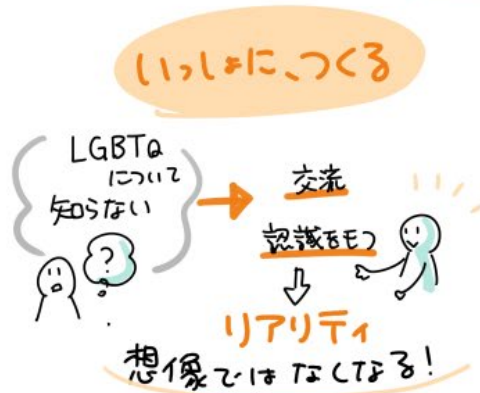
テーマ3

多様な人が活躍できる地域

- ▶ 仕事と子育てが両立できる地域をつくるには?



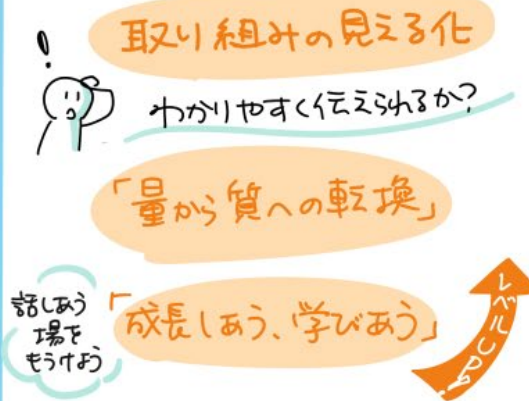
- ▶ 多様性を活かす地域を実現するには?



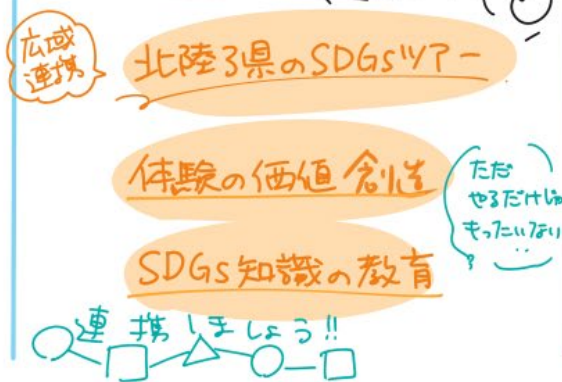
テーマ4

北陸版SDGsツーリズムが可能な地域

- ▶ 市民も来訪者もしあわせになれる観光とは?



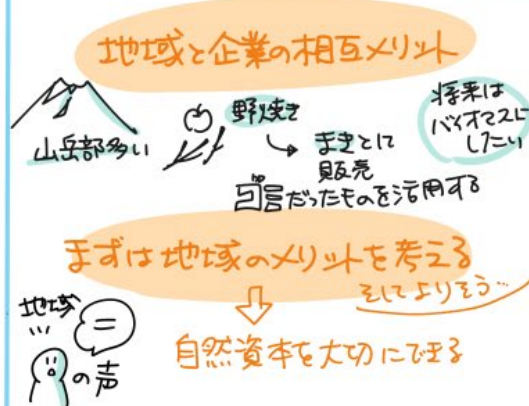
- ▶ 観光や教育を多面的な地域振興につなげるには?



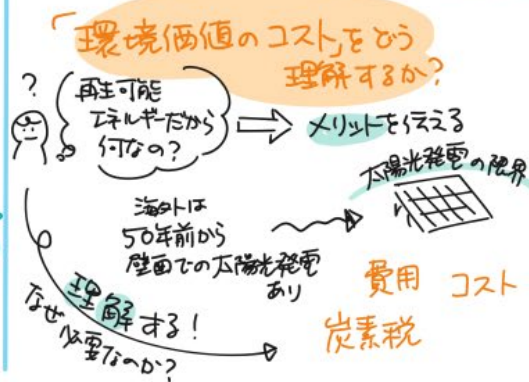
テーマ5

環境と経済の好循環を生み出す地域

- ▶ 自然資本を大切にする地域づくりを始めるには?



- ▶ 地域で再生可能エネルギーを活かすには?



テーマ1

既存の枠組みを越えた協働を生み出す地域

前半：分野・テーマの近い活動の交流を生み出すには？

SDGs 宣言企業の募集をしている。課題は交流する場所が少ないこと。その解決策となるアイデアが、さまざまな地域でいろいろ出始めている。

後半：SDGsを推進するための地域内・地域間のプラットフォームとは？

IMAGINE KANAZAWA 2030 など、地域内のプラットフォームはあるが、地域間ではプラットフォームがない。SNS などの一般のプラットフォームを活用して発信していけたらいいということを話し合った。

現状

- 交流する場所が少ない
- 地域間のプラットフォームがない



テーマ2

SDGs・次代の担い手育成が進む地域

前半：実践につながるSDGs教育とは？

キーワードとして出たのが「担い手の多様性」と「教育委員会同士の連携」。教育委員会同士の連携が今はなく、現状では学校とは別の部分で動いている。プラットフォームがあれば今よりも人が集まるのでは。

現状

- 学校同士の連携がないため、広がりに限界があり寂しい
- 子どもたちが取り組む場所はできつつある

後半：地域にSDGsを広げ、定着させる学びとは？

キーワードとしては「子どもたちの取り組みを認める」「リアルな体験」「次世代の学び」。子どもたちが取り組んだことを大人たちが認めてあげる場所が大切だという意見が出た。



テーマ3

多様な人が活躍できる地域

前半：仕事と子育てを両立できる地域をつくるには？

できない要因としては社会的な構造や先入観が問題であるという話が出た。解決するキーワードとしては、「子どもはみんなで育てる」。

後半：多様性を活かす地域を実現するには？

LGBTQ を題材にして、キーワードとしては「一緒につくる」。そもそも LGBTQ について知らない人が多すぎる。当事者とコミュニケーションをして、新しい社会をつくる必要がある。

現状

- 子育てが両立しづらい社会的構造と先入観がある
- LGBTQ について知らない人が多い



テーマ4

北陸版SDGsツーリズムが可能な地域

前半：市民も来訪者もしあわせになれる観光とは？

- ①「取り組みの見える化」...外から見てもわかるようにする
- ②「量から質への転換」...安くて数が多いものではなく、質を上げていく
- ③「成長し合う、学びあう」...関連する業種の人話し合う場を設けて、お互い知識を向上し合っていくこと

後半：観光を教育や多面的な地域振興につなげるには？

- ①「広域連携により、北陸三県のSDGs ツアーを設ける」
- ②「地域ならではの体験などをツアー化」して価値化していく
例）ホテル調査、日本庭園の清掃ボランティア
- ③「ツアーで案内する場所で、SDGs につなげたものの情報発信をできるように教育していく」



テーマ5

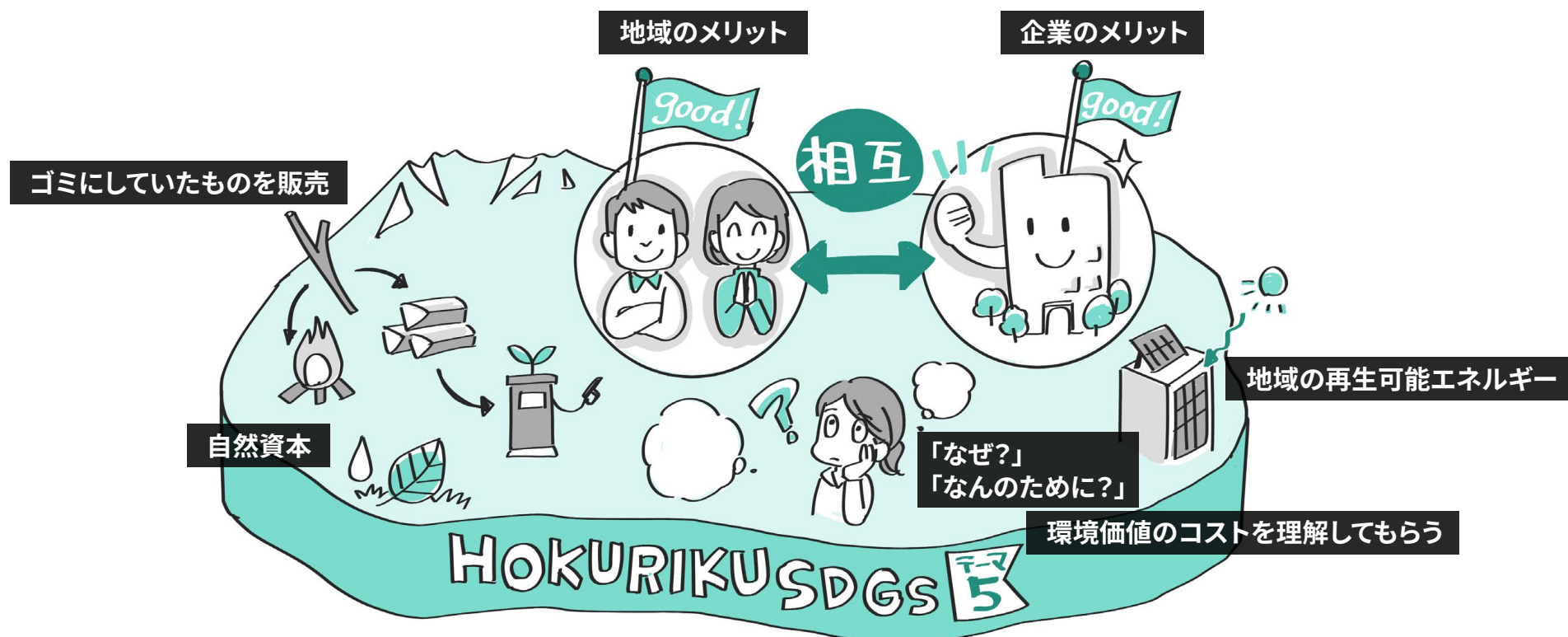
環境と経済の好循環を生み出す地域

前半：自然資本を大切にできる地域づくりを進めるには？

挙げたキーワードは「地域と企業の相互メリット」。まずは地域のメリットを考えて、そこに寄り添う。そうすることによって、企業のメリットも出せるようにし、自然資本をもとに地域づくりが進んでいく。

後半：地域で再生可能エネルギーを活かすには？

再生可能エネルギーとしての環境価値のコストをどう理解させていくかが重要。地域内にお金が残っていくことや、カーボンプライシングにより環境価値のコストが一般の方にも理解されることを期待する。



国連大学IAS OUIK 渡辺綱男所長

第二部：テーマごとに議論をして、お互いに悩みを共有し、気づきやヒントを得ながら次のステップへ進む力をもらうようになっていて、前回と比べてより深まったなという印象を持ちました。せっかく、北陸の自治体で集まって議論をしていますので、この中から広域連携プロジェクトが出てくるとさらにいいです。

エンパブリック代表 広石拓司氏

第一部：それぞれの地域でいろいろなアクションが起こり、先へ進んでいることが実感できました。なかでも企業との連携が各地域で進んでいることが印象的でした。このように他の地域の取り組みを知ることで、ますます地域が活性化していただきたいと思います。

第二部：経済、社会、環境の結びつきの同時解決的な思考が根付いてきたと思えますので、さらにそれぞれの地域の個性とネットワークを持ち寄り、相互に生かし合うような関係に深まっていければ、このフォーラムの重要性が一層高まると思います。



発行

IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議

お問い合わせ先：金沢市都市政策局 企画調整課

〒920-8577 金沢市広坂 1 丁目 1 番 1 号 TEL 076-220-2031 FAX 076-264-2535